

## VI. The PUBLIC THEATER

パブリック・シアターでは、ボランティア制度はないが、インターン制度が導入され、運営の上で成果をあげている。米国の文化施設ではインターン制度を導入しているところは多く、ボランティアに準ずる存在として考えることができるため、その一例としてパブリック・シアターの事例を調査した。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	The Public Theater
所在地	425 Lafayette Street, New York, NY 10003
TEL	212-539-8680
FAX	212-539-8505
開館年月	1965年
複合形態	複合館
施設特性	演劇劇場
座席数	91～299席までの6劇場
年間運営予算	年間12.1億円(1,100万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	731万人(1992年)
組織体制	有給スタッフ約65名



### 😊 インターン制度の概要

名称	インターンの導入状況は各部署の裁量に任されている(以下はコミュニティ事業部における内容)
導入時期	・1993年(コミュニティ事業部の設置年)
登録人数	・3名(ヒスパニック系2名、黒人1名)
導入の経緯	・これまで当劇場に縁の薄かった黒人やヒスパニック系、アジア系などのマイノリティの人種を観客として巻き込むため、その水先案内人となるインターンを採用。
活動内容	・今までパブリック・シアターと無縁だった人を観客として連れてくること
募集方法	・特に系統だった採用制度は採っていない。理事会役員からの紹介やコミュニティ事業部ディレクターのコネクションによって。
研修	・最初にヒントを与え、あとはインターン独自の考えと行動に任せる。「経験を積んでいる」という意識ではなく「仕事をしている」という意識で働いてもらう。
実費支給	・勤務時間は週20時間以上40時間以下(月～金の10時～16時)、週給は一律50ドル。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンのプロフィールや動機はまちまち。劇場の運営も知っておきたいと考えた女優、イェール大学のアート専攻の黒人などで、コミュニティ事業部の新しい観客開発に力を発揮できるバックグラウンドを備えた人が採用されている。</li> <li>・劇場側のスタッフは、彼らをチームの一員として扱い、手足の係り、雑用係にはしないよう心がけている。</li> <li>・パブリック・シアターのインターンで実績と経験を重ね、実際にリンカーン・センターのマーケティング課に就職した人もいる。</li> </ul>

## インタビュー記録

- ・訪問先：The PUBLIC THEATER
- ・住所：425 Lafayette Street, New York, NY 10003
- ・電話：212-539-8680 FAX:212-539-8505
- ・面会者：Ms. Donna Walker-Kuhne…Director of Community Affairs（コミュニティ事業ディレクター）

### 1. 事業主体の概要

#### (1) 設立

- ・創立者のジョゼフ・パップによって、無料の移動野外劇活動「シェイクスピア・フェスティバル」を行う非営利組織として設立されたのは、1954年。
- ・セントラル・パークに恒久野外劇場「デラコルテ・シアター」を開設したのは、1961年。
- ・ダウントウンに現在の5つの小劇場施設を擁する「パブリック・シアター」をオープンしたのは、1965年。
- ・有給スタッフ数：65名前後。季節や年度によって多少の前後あり。
- ・年間予算：約1,100万 US\$（約12.1億円）

#### (2) 組織と施設の概要

- ・「パブリック・シアター」というのは次の2ヶ所の施設を運営する非営利団体の名前であり、同時に、そのうちのひとつの劇場施設ビルの名称でもある。劇場施設としてのパブリック・シアターには常駐の劇団はおらず、非営利団体パブリック・シアターが毎シーズンごとに複数の新作劇をプロデュースして以下の2ヶ所の施設で公演を行う。

##### ① 劇場施設ビル「パブリック・シアター」の施設構成

- 1] ニューマン・シアター：299 席。階段状客席を持つ通常の前舞台型劇場。パブリックシアター内の5劇場の中で一番大きい。
- 2] アンスペーシャー・シアター：275 席。3/4 扇状のアリーナ型劇場。ミュージカル『ヘアー』の初演（1967年）が行われた劇場。
- 3] マーティンソン・ホール：167 席。舞台／客席のレイアウトが自由になるフレキシブル・スペース。2 階席のある、天井高の非常に高い劇場。
- 4] ルエスター・ホール：150 席。舞台／客席のレイアウトが自由になる劇場。
- 5] シバ・シアター：99 席。オープン・スペース・シアター。
- 6] リトル・シアター：91 席。映写室。映画上映用の階段劇場。

##### ② 野外円形劇場「デラコルテ・シアター」

- ・セントラル・パーク内にある。毎年夏期のみ使用される。観客収容人数は1,881名。入場無料。ここでは毎年、「パブリック・シアター」のプロデュ



● エントランス・ロビー

ースによるシェイクスピア劇の他、2~3のプロダクションが開催される。近年では、台本はシェイクスピアのオリジナルのままに現代的なプロダクションにリメイクされたものなども発表されている。

### (3) 「パブリック・シアター」のロケーション／催し／客層

- ニューヨーク大学、現代美術のメッカのソーホー地区、アナーキーな若者の多いイーストビレッジ地区、自由人の多いユニオン・スクエア地区などに4方を囲まれたダウントウンに位置する。人種的な特徴よりも、むしろ年齢的、職業的に特徴のある地区=すなわち、大学生~40代前半のアーティストや自由人が多いあたり。
- 10月から翌3月までのシーズン期間中、1カ月にひとつ、年間約8作の新作プロダクションが催される（上演される劇場はそれぞれのプロダクションにとって最適の場所が使用される）。
- 『ヘアー』『コーラスライン』をはじめ、歴史に残る数々の名作の初演をプロデュースして来た歴史を持ち、ブロードウェイまでのぼった作品は、二十作を越える。
- 創設者のジョゼフ・パップがエグゼクティブ・ディレクターを務めていた時代は、圧倒的に白人の知識層の観客に占められていた
- が、93年に黒人の劇作家兼プロデューサーのジョージ・C・ウルフ（ブロードウェイの『ジェリーズ・ラスト・ジャム』『エンジェルズ・イン・アメリカ』のプロデューサーとして有名）が三代目のエグゼクティブ・ディレクターとして就任して以来、白人・アジア系・黒人・ヒスパニック系それぞれの戯曲家・演出家の作品を、年間を通じてほぼ均等に開催。そのため、近年では、マイノリティーの客層が全体の半分を占めるようになった。

#### (4) 発足の背景と歴史的な経緯

- 1954年、ジョゼフ・パップが、ダウントウンの教会で無料の夏期シェイクスピア劇を開催。翌年からサマー・フェスティバルとして恒例となる。
- 1957年、ニューヨーク市中をくまなくめぐり入場無料のキャラバン公演を開始。
- 1959年、セントラル・パークにキャラバンを滞在させ、無料のシェイクスピア劇を続ける。61年、これを追い出しにかかったニューヨーク市との間に訴訟問題が起きるが、富豪のジョージ・デラコルテらが資金を出し合っでパーク内に野外劇場建設、これを市に寄付するという形で決着。以来、デラコルテ・シアターでのジョゼフ・パップのプロデュースによる無料シェイクスピア・フェスティバルは、夏期の恒例となる。
- 1965年、歴史的な建築(1881年竣工)である「パブリック・シアター」のビルを解体して住宅ビルにしようとして計画していたディベロッパーに対して、当時開設されたばかりの「ニューヨーク市歴史的建築保存課」が事業の進行をストップさせ、同年、市がこのビルを買い取り、非営利法人「パブリック・シアター」に半永久貸与する措置をとった。
- 劇場への内装改装工事の後、1967年、『ヘアー』の初演にてこけら落とし。

## 2. インターンシップ・プログラムについて

- パブリック・シアターではボランティアは一切導入しておらず、代わりにインターン制度を導入している。その導入の度合いは各部署ごとの裁量に任されており、非営利団体全体としての統一したポリシーはない。

\*注：ここでは、ジョージ・C・ウルフが3年前に就任した時に新設した部署、「コミュニティ・アフェアーズ(コミュニティ事業部)」におけるインターン制度について話を聞いた。

### (1) コミュニティ・アフェアーズ部

- コミュニティ・アフェアーズ部とは、マーケティングとセールスとアウトリーチをすべて足したような機能を担うところ。劇場の観客構成を「ニューヨークの多彩な人種構成の縮図」のようにすること、すなわち、白人だけでなく、いかに黒人やヒスパニック系やアジア系などマイノリティー人種を観客として巻き込むか、を画策する部署である。

\*注：一般的に言って、「観劇」を習慣的にする人種、あるいは劇場通いをする人種というのは、ほとんど白人で構成されている。

- 具体的には、劇場通いの習慣の無い人たちというのは「要するにどんな人たちなのか」「どこにいる人たちなのか」「なぜ劇場へ行かないのか」ということを探り出すことから、業務はスタートする。

### (2) インターンのプロフィール

#### ① 採用の対象となる人材

- 頭の回転がよく、創造力があり、ねばり強く、整理されており、真摯で、情熱のある人。そして、アーティストへのリスペクト(尊敬の念)を抱い

ている人。

- いままでパブリックシアターとは無縁だった“コミュニティ”の出身者であること。その“コミュニティ”の人間をパブリック・シアターに動員するための「水先案内人」として機能することを期待するため。

\*注：この場合の「コミュニティ」とは、地理的環境から言うところの群、経済的環境から言うところの群、人種的環境から言うところの群、文化環境から言うところの群、などを指す。「コミュニティ」という言葉の解釈については、別章『米国のボランティアを取り巻く社会構造全体についてのまとめ』を参照のこと。

## ② 採用の方法と雇用制度

- 特に系統だった採用制度はとっておらず、理事会役員からの紹介・推薦や、Walker Kuhne さんの個人的なつてや知り合いに直接声をかけて、というケースが多い。
- 劇場運営に興味のある高校生～大学院生などが「インターン希望」の手紙と共に履歴書を送って来ることも多い。
- 勤務時間は、週あたり最低20時間以上、40時間以下（月～金の10時～6時）。勤務時間の多寡にかかわらず、週給は一律50ドル。
- 採用は一時期ごとに、約3名。96年11月現在では、ヒスパニック系が2名＋黒人1名が採用されている。

## ③ インターンの業務・位置づけ・指導

- 「いままでパブリックシアターとは無縁だった人間をパブリック・シアターに観客として連れてくること」がメインの業務。
- どのようにしたら上記の業務が遂行・成就できるかについて、初めのヒントとガイドだけを与え、あとはインターン独自の考えと行動に任せるようにする。
- 客を探す、チケットを売るという行為は「修練」ではなく劇場の生存をかけた「仕事」。従ってインターンにも、「経験を積んでいる」という意識ではなく「仕事をしている」という意識で働くように指導する。一方ディレクターの Walker Kuhne さん自身も、あくまで彼らを「チームの一員」として扱うよう心掛ける（「手足の係」「雑用係」にはしない）。
- 夏のデラコルテ・シアター（＝シェイクスピア・フェスティバル開催時）にはインターンは採用しない。フェスティバル開催中の業務は、整理券を配る、電話の問い合わせに答えるといった一般事務ばかりが多く、インターン各自の能力や創造性・行動力を発揮するチャンスがほとんど無いため。

## ④ 3年前～現在までの優秀なインターン採用者の例

- Ms. Lea の場合：若手の女優。劇場の運営サイドのことも知っておきたいという動機で参加。雇用期間は6カ月。彼女の使命は、「中国」をテーマにしたプロダクションのためにいかに多くのアジア系の観客を導入するか、ということだったが、そのために当時彼女が作成した「アジア系マーケティング・リスト」は、本年度のプロダクションでアジアをテーマにした『GoldenChild』のプロモーションにも大いに役立っている。

## ■ The PUBLIC THEATER

- Ms. Wanda の場合：若手の女優。生活を支えるためにショップで売り子のアルバイトをしていたため、ワーキング・クラスのネットワークを沢山もっており、その“コミュニティ”の人々を観客として動員することに力を発揮した。また、劇場関係の非営利団体だけでなく社会福祉関係をはじめあらゆる団体にアプローチ。それらのコネクションを通じて多様な観客動員に成果をおさめた。
- Ms. Tiffany の場合：イエール大学大学院のアート専攻の黒人。雇用期間は半期。マイノリティ・グループの非営利団体、活動団体、福祉団体などあらゆるルートを通じて、地理的にも人種的にも文化的にもパブリック・シアターと無縁だったハーレム地区の住民を数多く観客として導入することに成功。この履歴のおかげで、彼女は卒業と同時に、リンカーン・センターの「ジャズ・アット・リンカーンセンター部」のマーケティング課に就職した。

### ⑤ インターンに対する評価基準

- いかにか多方面（文化・社会・教会・健康・福祉・政治など）の非営利団体とネットワークを広げるか、その行動力。
- 上記各団体の持つ既存のメーリング・リストや理事会役員の人脈などをいかに利用するか、そのポイントを捉える創造力。
- 初めて劇場を訪れる観客が疎外感を味あわないですむような「ウェルカム・フィーリング」を演出する社交性。

## 3. その他のインターンシップの例

- 年度の変わり目を前にした季節（5月～6月）には、大学生のインターンシップを募る非営利団体が増える。助成金情報ばかりを扱う図書館「ファウンデーション・センター」に掲示されていたインターン募集の概要書、参考までに3種類ほど添付した [資料 PT-1参照]。

—以上—

資料 PT-1 : ALICE FARLEY DANCE THEATER のインターン募集文書

-Foundation Center 掲示資料例-

*Looking Glass Productions, Inc.*

**ALICE FARLEY DANCE THEATER**

812 Broadway, 3rd Floor  
New York City, New York, 10003  
212-420-9208

MAY 06 1996

*Office Interns Needed!*  
Theater Interns

ALICE FARLEY DANCE THEATER seeks interns for project beginning May 1, 1996, continuing through August.

3 Positions available: 1) costume construction/puppet building - carpentry skills, knowledge of mechanics a plus - basic sewing.

- \* 2) production assistant/office work.
- 3) understudy dancer/puppeteer.

Show is a theater/live music collaboration between choreographer/designer Alice Farley and composer Henry Threadgill being created for the Henson Puppet Festival at the Public Theater, opens this September. Title is EROTEC (the human life of machines).

ALICE FARLEY DANCE THEATER is a resident dance company of La MaMa ETC. Work combines dance, puppetry, sculptural costuming, magic effects and circus techniques. "...a magician of light whose work falls somewhere between Alwin Nikolais and Oskar Schlemmer..." NY Times.

Low pay but very interesting project, good credit, and could lead to on-going work.

Fax resume to Alice Farley: (212) 420-9208.